

探訪 北の風景 ①

開拓民自立の鍵は酪農 渡島管内八雲町

青木和弘

尾張徳川家の開拓移住で始まる。開拓使の肝いりで西洋式の最先端農業に取り組み、酪農経営で八雲の産業基盤をつくり上げた。

そんな八雲と縁の深い作家がいる。1936（昭和11）年にアイヌの悲劇を叙事詩風に書いた小説『コシャマイン記』で第3回芥川賞を受賞した鶴田知也だ。二十歳の知也は1922（大正11）年8月、八雲を訪れて様々な職を体験しながら8カ月ほど滞在した。そこで彼の執筆活動に大きな契機を与える徳川農場の農業技術員・大田正治や、ユラップ・コタンの首長イコトルに出会っている。その後、学校の先輩だったプロレタリア文学の葉山嘉樹に誘われ上京。「文芸戦線」に加わり、作家としてデビューした。知也が再び八雲を訪れたのは受賞後の1937（昭和12）年9月で13年ぶりだった。

公益財団法人北海道文学館の初代館長を務めた木原直彦氏は、著書の『北海道文学散歩 1道南編』で、再訪の様子を、知也の作品『八雲にて』（昭和12年）を引用して紹介している。

「私」は八雲の変貌に目をみはつたが、「農業務所のある美しい森は、少しも変つて」いない。「私」に目新しいのは何よりも、点在する農家が一基のサイロを各々備えていること」だった。（親友の）太田君はしきりに、八雲がいかに酪農地帯として発展し、それは農民がはじめて切り開いた新しい生活の道であり、あなたはこの酪農の実際を見なければならぬ、と力説するのだった。帰京した知也はすっかり酪農論者になり、以来、酪農に関する小説を書き



鶴田知也文学碑には「不遜なれば 未来の 悉（ことごと）くを失う」と記されている。同人雑誌「小説」に1935年「コシャマイン記」を発表し、翌年第三回芥川賞を受賞。コシャマイン終焉の地を知也が愛した八雲のピンノラの断崖としている。鶴田知也文学碑建立期成会によって1985年6月15日に除幕式が行われた

続けた。それがみな八雲を舞台にしている、いかに八雲の酪農に打ち込んでいたかが分かる。

そんな鶴田知也の文学碑が八雲から熊石方面に向かう国道277号沿いにある。八雲市街から4キロぐらゐの距離だ。この国道をさらに先に行くと、雲石（うんせき）峠の手前に「八雲温泉おぼこ荘」がある、峠を越えてしばらく進むと湯治で知られる「見市（けんいち）温泉旅館」がある。二つとも温泉ファンに絶大な人気を誇る温泉宿だ。これらの温泉は海から離れた山岳地帯なのに食塩成分の多い湯が湧き出ている。

話はいきなりだが1600万年ほど前までさかのぼる。まだ、大雪山系はもちろん、駒ヶ岳や樽前山、恵庭岳、有珠山や羊蹄山、ニセコの山々など、現在、私たちが目にする第4紀（258万年前以降）にできた新しい火山が誕生する前の、新第3紀（2303万年前〜258万年）の出来事だ。



日本でも唯一、二つの海に面した町だ。太平洋側の八雲町と日本海側の熊石町が2005年に合併し、新しい郡名が「二世海（ふたみ）」となり、行政区分は渡島総合振興局管内。人口1万4897人（2023年5月末現在）、酪農と漁業が主産業である。

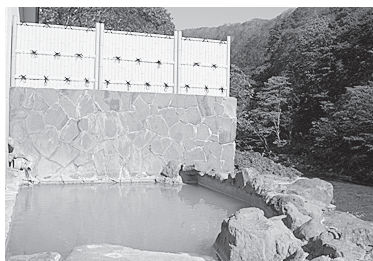
もともと八雲にはアイヌ民族が暮らしていたが、江戸時代に交易のために和人が住み始め、1801（享和元）年に蝦夷との境界として日本最北の開所「山越内関門」が置かれた。熊石の歴史はもともと古く、鎌倉時代後期の1296（永仁4）年に日蓮の六老僧の一人、日持（にちじ）が訪れた記録がある。北前船も寄港しニシン漁で栄えた。両地域とも歴史があつてエピソードも豊富だ。

八雲の本格的な開拓は1878（明治11）年の



「銀婚湯」の宿泊客専用の隠し湯「どんぐりの湯」は、つり橋で落部川を渡った右手にある。専用の鍵を受け取って利用する貸し切り風呂で、なかなか風情がある。泉質はナトリウム－塩化物・炭酸水素塩泉で源泉100%のかけ流し

見市温泉旅館の露天風呂から見下ろす見市川の流れ。四季折々変化に富んで心が癒される場所だ



八雲温泉おぼこ荘、冬の夜の露天風呂。大浴場からの通路は囲われているので冬も安心して入浴できる

いまの渡島半島から積丹半島あたりは深い海の底にあって、海底火山が激しい噴火を繰り返し、噴出したマグマが広く厚く堆積した。それがプレート現象で押し上げられて隆起し、その際の強い圧力と熱で変成して緑色凝灰岩になった。これがグリーンタフと呼ばれる地層だ。グリーンタフは海底で塩分のほかに、石こうを含む場合もあり、雨や雪などの天水が地中深くにしみ込み、それらの成分を溶かし込んで湧き出てくるのがグリーンタフ型温泉である。

八雲には、もう一つ、私の大好きな「温泉旅館銀婚湯」がある。ここも温泉成分書を見るとグリーンタフ型温泉だと分かる。大浴場に大きな内湯と趣のある露天風呂があり、広い庭に宿泊者専用の、6種類の貸し切りの隠し湯がある。温泉も食事もいい。見どころいっぱい自然風景も素敵な八雲町では、ぜひ温泉宿に泊まってほしい。